



8月に市内で行われるキッズトライアスロン講習会や大会の様子

## このまちのトライアスロンを支えるキーマン

「選手を強くする」のではなく、強くなる「きっかけ」を与える—



株式会社 HIDEAR  
宮塚 英也 氏

トライアスロンの世界最高峰レースで、日本人で唯一2度のトップ10入りを果たした宮塚氏。30年以上も本市に暮らす彼は、オーストリア選手のトレーニングやキッズトライアスロンにも携わるほか、全国各地でトライアスロンの指導や講師、自転車のメカニックなど多方面に活躍している。

38歳で現役を引退した後、15年以上選手をサポートしているが、指導者という立場になった当初は苦勞をしたそ

う。「理屈でいくら説明してもその通りにはいかない」と当時を振り返る。

しかし、選手を支える立場だからこそ味わえる喜びや感動があるといい、「教え子が結果を出すと自分が選手時代に勝った時の100倍嬉しい」と微笑む。

「スポーツは指導者が結果を出すためだけでなく、選手のためにある。だから指導者は選手にヒントを与えるだけ」という彼のポリシーがこれからも揺らぐことはない。



### オーストリア選手が事前キャンプ

市では、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、オーストリアからのトライアスロン事前キャンプを誘致しています。

今年の5月には、横浜で開催された世界大会に出場する5人が市を訪問し、子どもたちとの交流やスイム、バイクなどのトレーニングを行いました。来年以降も、オーストリア選手がトレーニングや大会前の調整のために市を訪れる予定です。



常盤 洋 さん(74歳)

11月3日開催の那須塩原ハーフマラソンで走路員として選手たちを誘導するスポーツボランティアの常盤さん。

## 選手の挑戦を支える裏側

さまざまなスポーツ大会の現場で、選手とともにスポーツに親しみながら、選手たちをサポートする市スポーツボランティア。精力的に活動をする常盤さんにやりがいや自身の変化について、話を聞いた。

### スポーツへの恩返し

若い頃からスポーツに親しみ、これまで陸上や水泳、スキーなどに汗を流してきた常盤さん。仕事を定年退職した後、県内外のマラソン大会に出場していたが、数年前から少しずつ体力の低下を感じはじめたという。そんなとき、市でスポーツボランティアを募集していることを知り、すぐに応募。これまで参加者として、ボランティアの人たちに支えられてきた常盤さんにとって、「なにか協力したい、恩返しをしたい」という思いがあったという。

### 新たな一歩で人生を豊かに

実際にボランティアを始めてみると、これまで面識のなかった人との交流が増え、人付き合いの幅が広がったそう。常盤さんは、「サラリーマンの頃は会社の人とのつながりがほとんど。ボランティアになり、私とは全く違う生き方をしてきた人との出会いもありました」と教えてくれた。

これまでマラソンに参加していた常盤さんは、走っている人の気持ちがよく分かる。だから、自分より年上の人が出場しているのを見ると「頑張れ！」と応援すると同時に「自分も負けてはいられない」と刺激を受けることもあるそう。

そんな常盤さんが心がけているのは、選手の怪我を防ぐこと。「選手にとって一番の敵は怪我なので、細心の注意を払いながら常に先を読み、選手に危険がないか気を付けています」と表情を引き締める。

サラリーマン時代は時間的な余裕もなくボランティアをしたことがなかったという常盤さん。しかし、自分の時間を持つことができる今、ボランティアを始めたことで選手とは違う立場を経験。人としても豊かに側へ立場が変われば視点も変わり、自分の人生経験になります。少しでも興味がある人はぜひボランティアを経験してみてください」と笑顔いっぱい話してくれた。

### いちご一会とちぎ国体

1980年の「栃の葉国体」以来、42年ぶりに県内で開催される「いちご一会とちぎ国体」。本市でも5競技が行われ、各都道府県の代表によるハイレベルな戦いが繰り広げられます。

開催期間：2022年9月中旬～10月中旬

市内開催競技：

サッカー・ソフトテニス・馬術・ゴルフ・トライアスロン



### スポーツボランティア募集

スポーツに興味のある人や大会運営に携わってみたい人など、ぜひ登録してみませんか。一緒に感動を分かち合しましょう。



▶ 問い合わせ

☎スポーツ振興課 ☎0287(37)5439